

# どう　ろ　うえ　おお　いわ 道路の　上の　大きな　岩

むかしむかし　ひとり　おうさま　くにじゅう　たみ  
昔々、一人の王様がいました。その王様は、国中の民が とても わがままだったので、  
とても 悲しんでいました。だれも、人の 助けには なりたがらず、自分の 利益を 求めて  
た　ひとたち　あらず  
他の人達と 争ってばかり いました。民は、あらゆる ことで 不平や 文句を 言いました。

ひ　おうさま　しろ　ひとひと  
ある日、王様は、お城のバルコニーから 人々の ひどい ふるまいを ながめて いました。  
「わが国には、誠実で 心の 正しい 人が、一人も いないのだろうか？」　王様は 少し  
かんが　おも　つ  
考えて いましたが、あることを 思い付きました。「そうだ！　こう しよう！　だが、  
だれにも 知られないように やらなくてはな。そうで ないと、うまく いかないから！」

よる　お　くろ　は　お　ひとかげ　しろ　で  
夜に になると、大きな 黒い マントを 羽織った 人影が、お城から そうっと しのび出  
てきました。その人影は 大通りに 出ると、地面を 掘り始め、その後、とても 重そうな  
ものを 道に 転がして いました。

よくあさ　はや　おうさま　いち　ば　み　で　きみょう　こうけい  
翌朝 早く、王様が、市場が よく 見える バルコニーに 出してみると、奇妙な 光景が  
め　まえ　ひろ　おお　ま　なか　お　いわ　ころ  
目の 前に 広がって いました。大通りの ど真ん中に、大きな 岩が 転がって いたのです。  
岩の 周りには、人ばかりが できて いました。王様は ほほ笑むと、こう 言いました。  
「これで、だれが た　ひとたち　おうこく　を　き　に　かけているか、じきに わかるだろう。」





いちにちじゅう おおぜい ひと に ばしゃ うま の 1日中、大勢の人や 荷馬車や 馬に 乗った 人や 偉い 騎士や 貴族達が、岩の そばを  
とお す い なか ま なか 通り過ぎて 行きました。中には、通りの ど真ん中にある 岩に 向かって、腹立たしそうに  
どなる 人達も いました。岩を ける 人達も いましたが、岩を どけようと する 人は、  
だれも いませんでした。

その日は、ゆっくりと 過ぎて 行きました。王様は、毎時間 バルコニーに 出ては、だれか  
いわ 岩を どけたらどうかと 見てみましたが、岩は 丸1日中、通りを ふさいだ ままでした。



ひ 日が かたむき始めると、王様は 悲しい 気持ちで、今1度、バルコニーに 出てみました。  
(果たして、岩を どけようと するほど 思いやりの ある 人は、現れるだろうか?)

すると、年老いた 羊飼いが 羊の 群れを 連れて、こちらに 向かって 来るのが 見えました。

「一体 こったい、何で こんなに 大きな 岩が 道の ど真ん中にあるんじやろう?  
道を ふさいで おるじや ないか! みんなが 通れるように、どかさんとな。」



年老いた羊飼いのにとって、それは大変な作業です。羊飼いは自分の大きなつえをてこにして、ゆっくりながらもやつのことで、岩を通りのわきの方にまで転がしました。

すると、羊飼いのおどろいたことに、岩をどけた後の地面には穴があり、そこに小さな木箱がうまっていました。その箱を取り上げて見ると、ふたは簡単に開き、中には金貨がぎっしりとつまっているではありませんか！

中には、手紙が入っていました。手紙を開くと、こう書かれていました。



「<sup>まず</sup>貧しい者（<sup>もの</sup>必要を <sup>ひつよう</sup>かかえた <sup>ひと</sup>人）を <sup>ひと</sup>あわれむ <sup>もの</sup>者は <sup>しゅ</sup>主に <sup>か</sup>貸すのだ。  
その <sup>しゅ</sup>ほどこしは <sup>こう</sup>主が <sup>ごやくせいしよ</sup>つぐなわれる。」（口語訳聖書、箴言 19:17）